

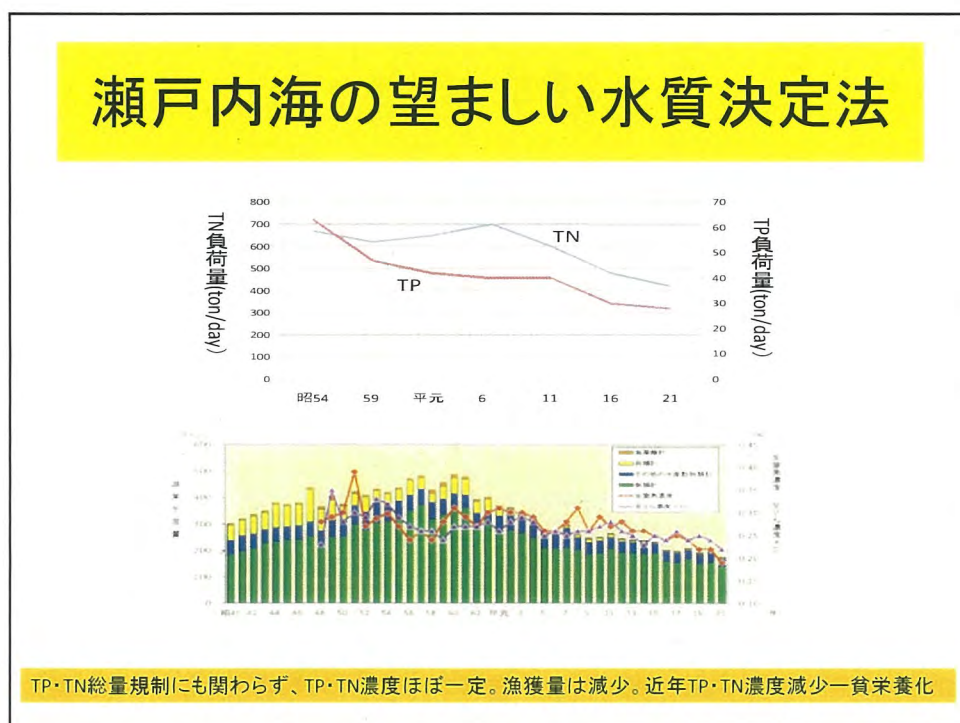
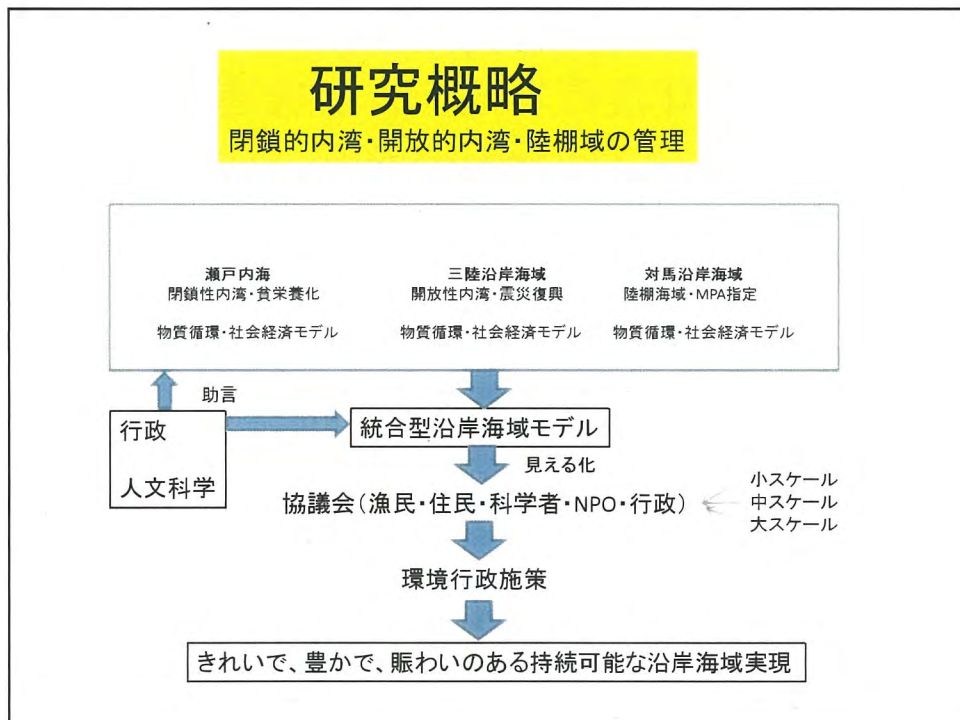
2013年度環境研究総合推進費
【問題対応型】

持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発(FS)

九州大学・応用力学研究所
柳 哲雄

研究組織

- ・ 柳 哲雄 九州大学/応用力学研究所/教授 総括
 - ・ 西嶋 渉 広島大学/環境安全センター/教授 瀬戸内海管理手法
 - ・ 清野聡子 九州大学/大学院工学研究院/准教授 対馬沿岸海域
管理手法
 - ・ 小松輝久 東京大学大気海洋研究所/准教授 三陸沿岸海域
管理手法
 - ・ 仲上健一 立命館大学/政策科学部/教授 社会経済学の観点
からの考察
 - ・ 田南敏秀 愛知大学地域施策学部/教授 人文科学の観点
からの考察
- アドバイザー：行政担当者（市町村、県、国）、P.O.、企画委員会委員

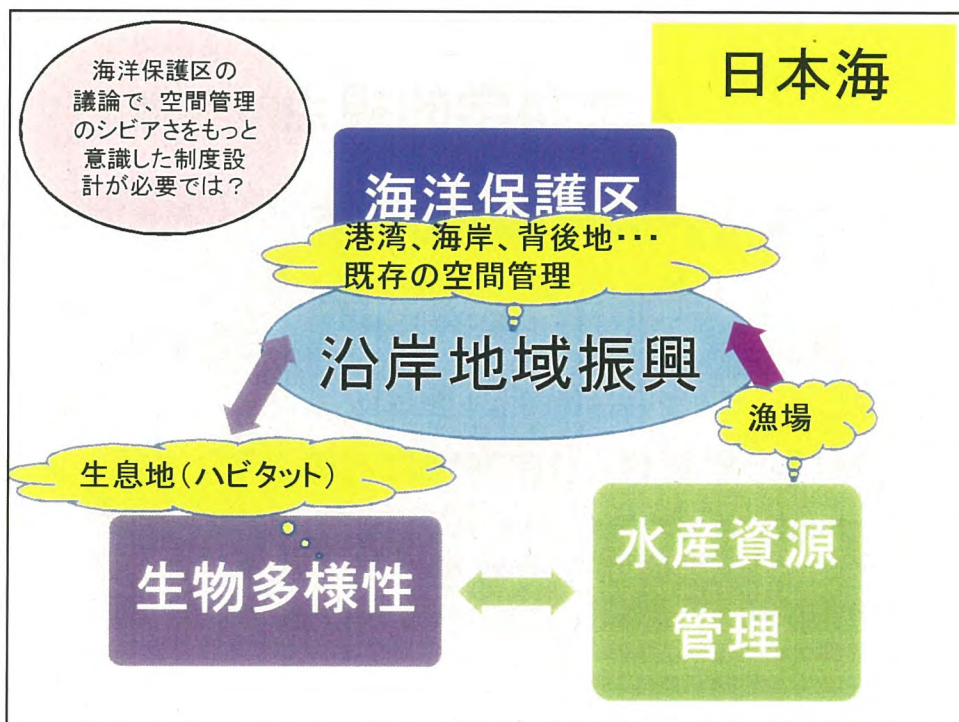


三陸沿岸海域

- 自然的特徴
 - リアス式海岸線・連続する公園
(陸中海岸国立公園の特別保護区域・特別区域、南三陸金華山国定公園、松島県立公園)
 - 海水交換のよい開放的内湾



2011年3月11日東北太平洋大震災による千年に一度の大津波→漁船・カキ・ホタテ養殖施設の流出
 その後の地盤沈下(-1m弱): 港湾・漁港設備の劣化
 海洋汚染: 放射能・PCB(トランス・コンデンサー)・油(車・船)・
 重金属(バッテリー・瓦礫)・TBT(防汚剤)
 壊滅的打撃を受けた沿岸海域生態系をどのように復興させ、
 漁業を復活させるか?(沿岸漁業・養殖漁業・
 沖合漁業・マグロ遠洋漁業基地・関連する
 造船・水産加工業)



社会科学的視点

海域・沿岸域・陸域の

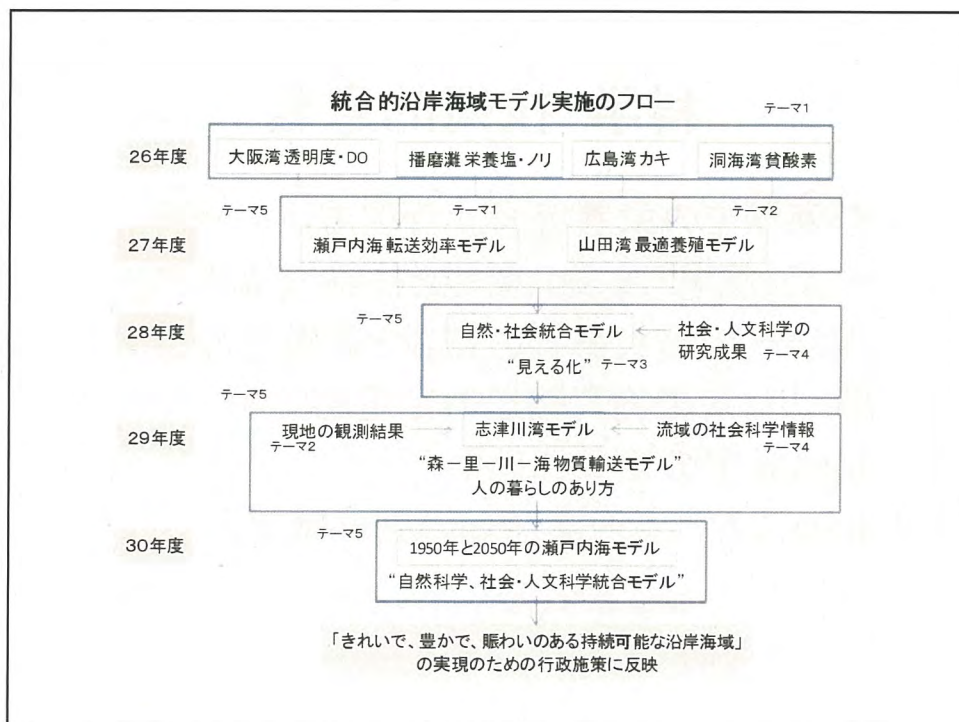
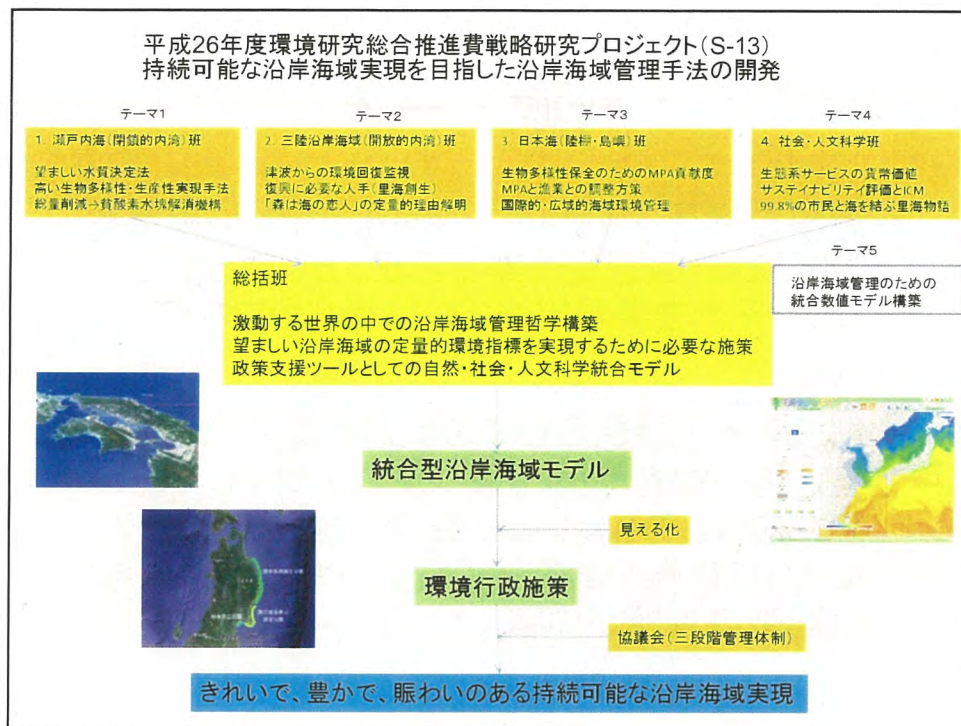
漁業者・農業者・林業者・工業者・輸送業者・商業者・
観光客の関わり、価値の把握、利害調整
協議会のあり方

環境経済学的手法(環境利用価値の経済的評価)、
生態系サービス・コモンズ評価、
持続可能性指標

政策決定支援システム

人文科学的視点

- 「里海」という沿岸海域のあり方
- 「里」: その地の歴史を含む懐かしさを生起
- 物語の重要性: 沿岸海域にどのような物語(歴史)があり、それと祖先はどのように付き合ってきたのか? それを今後どう発展させるのか?



行政ニーズ

- 課題の背景:「きれいで・豊かな・賑わいのある沿岸海域」は国民の期待だが、どのような施策によりそれを実現出来るかは明らかでない。
- 解決すべき課題及びその問題意識:「栄養塩濃度が低いのをどうするか、藻場をつぶして防潮堤を建設しても良いか、海洋保護区の設定はどのような意義があるか」など、日本の沿岸海域には喫緊の課題が山積している。

科学・技術的意義

- 各海域での栄養塩濃度管理方策の提案
- 干潟・藻場・浅場の機能と役割の解明
- 藻場への震災影響の監視と復興策の提示
- 森・川・海の物質輸送の定量的解明
- MPA設定の定量的効果
- MPAにおける漁業活動の調整策提示